

「みち」 令和3年6月18日 発行

「働き方改革」…コロナ禍で見えてきたもの

2017年、中央教育審議会に「学校における働き方改革特別部会」が設置され、その中間まとめや緊急提言を受けて、文部科学省の「緊急対策」が取りまとめられました。それ以降、国・教育委員会・学校がそれぞれの立場で、様々な働き方改革を進めてきました。

本市でも、今年度、様々な取組を推進していきます。4月に配布された「須賀川市の働き方改革 2021」を基にして、各校での取組を具体化していきましょう。

“これまで学校で積み重ねてきた教育活動は、何かしらの教育的意義があって実施されてきたものばかりであり、その活動自体が否定されるものではありません。しかし、人・モノ・カネ・時間という限りあるリソースを有効活用するために、業務に優先順位をつけて精選を進めていく必要があります。”

(文科省 HP より)

それぞれの学校が抱える課題も、子どもたちの実態も違います。「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり」を推進するにあたって、学校ごとの教育活動への優先順位の付け方も変わってきます。このコロナ禍において、子どもにとって大切なものは何か、学校にとって大切にすべきことは何かを、改めて考え見直す機会にして新たな取組を進めてきた学校もあったのではないのでしょうか。

4月からここまでの2か月余り、入学式をはじめとする、授業参観、PTA総会、運動会、中体連の各種競技などが行われてきました。昨年度のコロナ禍における経験や対応などをもとに、各学校の実態に応じて様々な工夫を凝らしてきたことも、働き方改革につながっている一面もあるのではないのでしょうか。



文部科学省HPには、令和3年3月にまとめられた「全国の学校における働き方改革事例集」があります。各校の課題や子どもたちの実態に応じて参考にしながら、本市が進める「須賀川市の働き方改革 2021」を自校でどのように推進していくことができるか、全職員で考えていくことが大切だと思います。

←「須賀川市の働き方改革 2021」

一冊の本から…

わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭を悩ませている親にとっても、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。

(中略)

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけ出した知識は、しっかりと身につきます。

レイチェル・カーソン著

「センス・オブ・ワンダー」より



2年ぶりに開催された中体連支部大会



感染防止対策を工夫して開催した運動会

授業づくりとは

授業を構想するのは教師です。授業には当然ねらいがありますから、どの授業にも教師の願いが込められています。しかし、学ぶのは子どもです。授業を構想する段階では、子どもの姿を思い描き、展開を考えますが、実際に授業が始まってしまうと、教師が思い描いた発言をするとは限りません。だからこそ、子どもの思いに寄り添う教師の姿勢が大切なのです。その姿勢こそが、子どもの問題解決を促してくれるからです。

そうはいても、子どもの考えすべてを受け止め、すべて実現させることは不可能だし、時間も限られています。しかし、できる限り、子ども自らが問題を見出し、自分たちで解決していける支援を行うことが大切だと思います。

もし、教科書に書いてある“問題”を、教科書に示されている“実験”を通して“解決”する授業を行ったとしても、それらすべてを教師の指示によって行わせるのか、それとも、子どもたちとのやり取りを通して問題が浮き彫りになるようにし、どうやったら解決できるのかを子どもと一緒に考えるのか、ここに大きな違いが生まれます。

どちらを選択するかによって、学びに向かう子どもたちの意識は、まったく違ったものになるからです。

鳴川哲也著 「理科の授業を形づくるもの」より

理科の授業をもとに鳴川先生の授業づくりに対する思いが記されていますが、どの教科・領域等に置き換えても通じることだと思います。子どもたちの学びに対する思いをしっかりと受け止めた授業づくりを心がけていきたいですね。

協同的な学びをめざして

昨年度からのコロナ禍においても、様々な感染予防対策を工夫しながら学習活動を展開し、各校の実態に応じて、授業と授業研究を第一優先にした学校づくりの推進・充実を図ってきています。

“協同的な学び”を実現するために、グループ学習を取り入れている場面がたくさん見受けられます。「グループは話し合いの装置としてではなく、困ったときの見合いの装置として使われている。」

学校教育アドバイザーの永島孝嗣先生は、2021年4月「指導と評価」の冊子の中で、このように記しています。

私たちが授業で「協同での探求」を目指すために、もう一度、グループの機能を確認して授業づくりに取り組んでいくことが大切なのではないかと感じました。

研修講座 開講します

コロナ禍において、昨年度は実施できませんでしたが、今年度は、可能な限りの感染防止対策を講じて実施いたします。学校や先生方が抱える課題解決につながるひと時となるよう、講座を活用してください。たくさんの先生方の受講をお待ちしております。



令和元年度の研修講座の一例